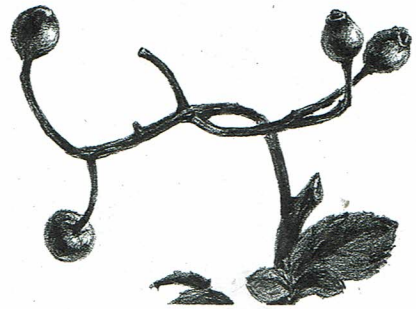


# 朝日 俳壇 歌壇



〈ノイバラ I〉 日高理恵子

### ● 永田和宏選

和訳した「I miss you」を伝えたい「夕日が  
とても綺麗だったよ」 (神戸市) 浅野 月世  
血管に刺すこの針は細くとももう場所がない  
君の腕には (浦安市) 中井 周防  
はいはいとはいとはいを使い分けうちなる  
富士の噴火を防ぐ (春日部市) 宮代 康志  
愛してるとも好きとも言わず逝ったけど二十  
九年おもしろかった (豊中市) 夏秋 淳子  
☆泣きながら裏山に来て父親の「升瓶を叩き割  
りたり (大分市) 野田 孝夫  
「デ・キリコの少女にふっと会えそよな街中の  
午後ペダル踏みゆめ (高山市) 松井 徹朗  
爛恋村よりの油縄へ到着す「マーキングされし」ア  
サキマタラは (前橋市) 荻原 葉月  
お勝手、と母の母のんが出入りするときにた  
けそこは勝手口 (町田市) 中野 功治  
旅立った妻があきれてしまっは「明るへ生さ  
ねは妻かかなしむ (館林市) 阿部 芳夫  
親族は他人同士の集まりで赤ちゃん一人が皆  
とつながる (東京都) 上田 結香

【評】浅野さん、「あなたか恋しい」なんて野暮。こんな和訳をもらったら、誰でも靠くこと必定。中井さん、もう針を刺す場所もないほど点滴をしてきた君を悲しむ。宮代さん、ニュアンスの違う「はい」を使い分けて種なる火を鎮める。

### ● 馬場のき子選

秋の日や荒川沿いの遊歩道小亀一匹センター  
を行く (戸田市) 蜂巣 厚子  
九月田のなかに分け入り荒稲の三粒を噛みぬ  
明日、刈り取らむ (宮城県) 石川 鋼  
パーレーンの何も知らずにパーレーンのカニ  
を茹でおり秋の厨に (福島市) 美原 凍子  
少年野球の監督として日曜日非番の巡査校庭  
に立つ (三鷹市) 宮野隆一 郎  
キヌをした日か何かもこれまで景色の  
色が濃い何もかも (大船渡市) 桃 心地  
☆泣きながら裏山に来て父親の「升瓶を叩き割  
りたり (大分市) 野田 孝夫  
父遺せし蜜柑畑は放置され有明海の夕照には  
ゆ (船橋市) 村田 敏行  
びつしりと網戸へはばる虫に異常気象を知  
る九月尻 (箕面市) 大野美恵子  
☆兜虫の幼虫焼いて食べていた進叔父さんの時  
代来たれり (佐世保市) 鴨川 富子  
上の葉から順に食べてゆくルリタテハの幼虫  
いつも葉の裏にいて (仙台市) 小室 寿子

【評】第一首は秋日さしの長閑なある日の遊歩道。荒川沿いの雲田気もよい。道のセンターを悠々とゆく小亀の姿に嬉しくなる。第二首の荒稲は穂からじかに摘んだ稲粒。上等の米の味だったのだろう。第三首はパーレーンの渡り蟹だろう。

### ● 佐佐木幸綱選

☆兜虫の幼虫焼いて食べていた進叔父さんの時  
代来たれり (佐世保市) 鴨川 富子  
木洩れ日と風のささめき鳥のこゑもとも失  
くす樗を剪りて (羽咋市) 北野みや子  
捨て猫に給食のパンやりし子は牧場に住み馬  
の世話する (横浜市) 和田 順子  
農事試験に過ごし若き日のありき稲田を見  
れば心鎮まる (東京都) 上田 国博  
駅々て手を振る人ら待ち待ちて南阿蘇路に鉄  
道走る (熊本市) 徳丸 征子  
井戸水がふと温かい秋の朝布団を替えて湯た  
んぽを出す (下呂市) 河尻 伸子  
淵に顔に思ひ思ひに入り立ちて竿振る人ら青  
き那珂川 (水戸市) 檜山佳与子  
食料品買いきてながめ今更には老万田の価値を  
うたがう (横浜市) 白鳥 孝雄  
A. I. に恋する人を認るめ奇異なことでも  
なし我らには (伊勢市) 中西 欣也  
中秋の名月の夜ベランダに東の空の木星を待  
つ (春日市) 横山 辰生

【評】第一首、昆虫食の時代が見えてきた。「進叔父さん」はどんな人だったのだろう。第二首、樗を伐採したために失ってしまったもの大きさ。第三首、現在、牧場で馬たちと暮らす息子(娘かも知れない)の幼き日を思い出す作者。

### ● 高野公彦選

獄中の人となりても引き下らないモハン  
マティさんノベル平和賞(安中市) 鬼形 輝雄  
獄中で闘ひ続ける人もあるに我は婆婆にて無  
為に生きたり (朝霞市) 岩部 博道  
野良仕事引退宣言後の父を秋の陽射しが畑へ  
いざなふ (津市) 土屋佳子  
岩に立ち不動で水面を見つめていた仁淀フル  
ーの鮎を釣る父 (東京都) 小川あゆみ  
これで今日二度目の通り雨に遭い変えてみた  
くなる生き方少し (富山市) 松田 わこ  
「春夏冬中」本当に無くなりそうだから一  
杯飲んでいこう (袖ヶ浦市) 一尾 弘志  
鍋物の具材出始め夫にくした友に淋しい初め  
ての秋 (春日井市) 伊東紀美子  
もう誰も住まぬ実家の仏壇の兄の遺影の白き  
歯並で (東京都) 村上ちえ子  
「初冠雪」と聞けば清らかな気持ちになる遠く  
日きみと初めて会った日(東京都) 上田 結香  
月食のときだけ仕事を休めます月のうききは  
いつも大変 (奈良市) 山添 聡介

【評】一首目と二首目、弾圧・拘束されても闘い続けるイランの人権活動家への讃歌。三首目、農作業の好きな老父は、陽射しを浴びるとじっとしていられない。四首目、思い出の中の父の元気な姿、そして澄んだ仁淀川の美しいフルー。

## うたをよむ 歌を探し求めて

弘平谷隆太郎

国語の教科書で短歌に出会う。そうい  
う中高生も少なくないだろう。どこ  
で、そこに載っている短歌は、誰がどの  
ように選んでいるのか？ 教科書の編集  
者および全国の学校現場や大学の先生か  
らなる編集委員が、数十、数百首と候補  
をかき集め、掲載歌を決めていくのだ。  
正岡子規、与謝野晶子、寺山修司。近現  
代の短歌史上重要な歌人の、いわゆる名  
歌は外せない。でも、いかにも教科書然  
とした歌ばかりを読んだ(読まされた)時

子どもは短歌に興味を持てるだろうか？  
ここが、教科書編集の悩みどころだ。  
ひまはりのマンダラシアとはほけれど  
とほけれどマンダラシアのひまはり  
永井陽子  
いまの教科書に載っている歌は、日向  
にはもちろんのこと、短歌史の日陰にた  
って、優れた歌の花はいくつも咲いてい  
る。永井陽子のこの歌は短歌という定型  
詩の持つ豊かな音楽性を教えてくれる。  
「コト木でもミレーでもない僕がいて時

きたい種を探す夕暮れ  
現代の人気歌人の歌もある。生涯かけ  
て追うべき夢が見つからない。そんな思  
春期の葛藤にまっすぐ届いていく歌だ。  
冬の駅ひとりになれば耳の奥に硝子の  
駒を置く場所がある 大森静佳  
平成以降に生まれた歌人の歌も載って  
いる。殺風景な冬の駅でも「硝子の駒」  
という一語を詠み込むだけで、凛とした  
美しさを帯びる。それが、言葉の力だ。  
時代とともに子どもの感性は変わる。  
だから、教科書も変わって続ける。子ども  
の感性に響く歌を探し求めて、これまで  
も、そしてこれからも。(教科書編集者)

ウラジスラバ・シモノバ著「ウクライナ、  
地下壕から届いた俳句」 黛まどか監修。  
「地下壕に紙飛行機や子らの春」「雨に転が  
る血まみれの小さき靴」(集英社・2200円)  
高橋修宏著「鈴木六林男の百句」 副題は  
「<戦後>を問い続ける」。掲載句に「花篝  
戦争の闇よみがえり」「永遠に振りのごとし  
戦傷の痕」(ふらんす堂・1650円)

☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メディアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿は無地のはがき1枚に1作品、未発表の自作のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。